

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

平成26年10月
福岡市教育委員会

1. 調査の概要

（1）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

（2）調査の対象とする児童生徒

【小学校調査】

- ・ 小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

- ・ 中学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年

（3）調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査 [国語，算数・数学]

国語，算数・数学はそれぞれ「A主に知識に関する問題」と「B主に活用に関する問題」を出題。

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

（4）調査の方式

悉皆調査

（5）調査日時

平成26年4月22日（火）

【小学校調査】

| 1 時限目 | 2 時限目 | 3 時限目 | |
|-------------------|--------------|--------------|------------------|
| 国語A，算数A (各20分) | 国語B (40分) | 国語B (40分) | 児童質問紙 (20分程度) |

【中学校調査】

| 1 時限目 | 2 時限目 | 3 時限目 | 4 時限目 | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|------------------|
| 国語A (45分) | 国語B (45分) | 数学A (45分) | 数学B (45分) | 生徒質問紙 (20分程度) |

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

児童生徒に対する調査について、平成26年4月22日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計（推計含む）。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

②集計児童生徒数（4月22日に調査を実施した児童生徒数）

【小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年】

| | |
|-------|---------|
| 国語A | 12,354人 |
| 国語B | 12,356人 |
| 算数A | 12,356人 |
| 算数B | 12,357人 |
| 児童質問紙 | 12,358人 |

【中学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年】

| | |
|-------|---------|
| 国語A | 11,233人 |
| 国語B | 11,240人 |
| 算数A | 11,238人 |
| 算数B | 11,239人 |
| 生徒質問紙 | 11,228人 |

③集計学校数

【小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年】

| | |
|--------|------|
| 小学校 | 143校 |
| 特別支援学校 | 1校 |

【中学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年】

| | |
|--------|-----|
| 中学校 | 68校 |
| 特別支援学校 | 1校 |

2. 調査結果の概要と考察

(1) 調査結果の概要と考察の考え方

本調査結果の概要については、本市における調査結果を全国及び福岡県と比較しその概要を示すとともに、本市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも本市の学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する調査や学校に対する質問紙調査の結果から考察しようとしたものである。なお、学校に対する質問紙調査の結果については、本市の取組状況を把握する一方途としているが、調査対象校数が少なく統計的な有意性に課題もあると考えられることに留意する必要がある。

(2) 教科に関する調査結果の全体概要と考察

①教科に関する調査結果の概況

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

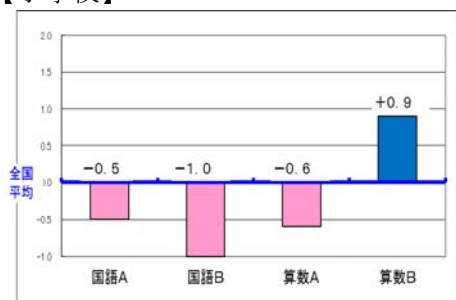
| 小学校調査 | | 国語 A | 国語 B | 算数 A | 算数 B |
|---------|-------|------|------|------|------|
| 福岡市(市立) | 平均正答率 | 72.4 | 54.5 | 77.5 | 59.1 |
| 福岡県(公立) | 平均正答率 | 72.0 | 54.4 | 77.7 | 57.4 |
| 全国(公立) | 平均正答率 | 72.9 | 55.5 | 78.1 | 58.2 |
| 福岡県との比較 | | +0.4 | +0.1 | -0.2 | +1.7 |
| 全国との比較 | | -0.5 | -1.0 | -0.6 | +0.9 |

| 中学校調査 | | 国語 A | 国語 B | 数学 A | 数学 B |
|---------|-------|------|------|------|------|
| 福岡市(市立) | 平均正答率 | 79.9 | 52.6 | 67.9 | 61.3 |
| 福岡県(公立) | 平均正答率 | 78.4 | 49.6 | 65.6 | 57.8 |
| 全国(公立) | 平均正答率 | 79.4 | 51.0 | 67.4 | 59.8 |
| 福岡県との比較 | | +1.5 | +3.0 | +2.3 | +3.5 |
| 全国との比較 | | +0.5 | +1.6 | +0.5 | +1.5 |

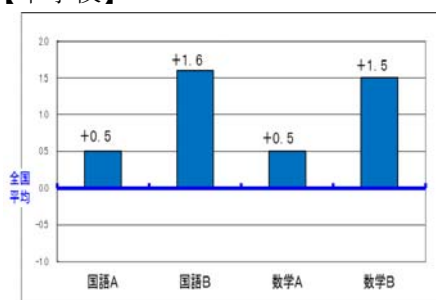
- ◆ 小学校の算数B、及び中学校の国語A、Bと数学A、Bの5分類で全国平均を上回るものの、小学校の国語A、Bと算数Aは全国平均を下回る。

②全国と福岡市の平均正答率の比較

【小学校】



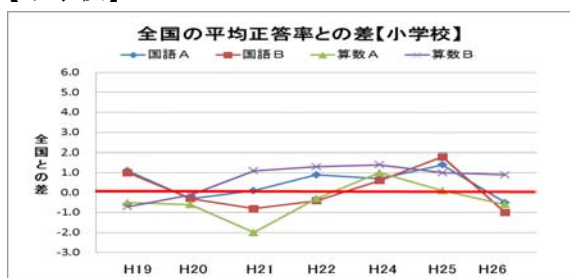
【中学校】



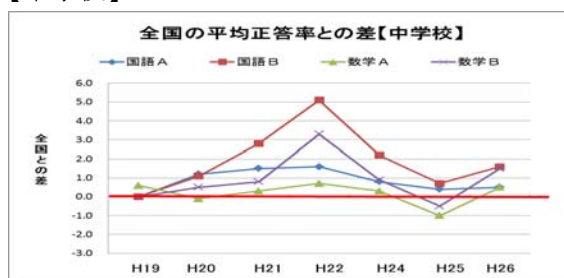
※全国の平均正答率を0として福岡市の平均正答率と比較

③分類ごとに見た全国と福岡市の平均正答率の経年比較 (H19~H26)

【小学校】

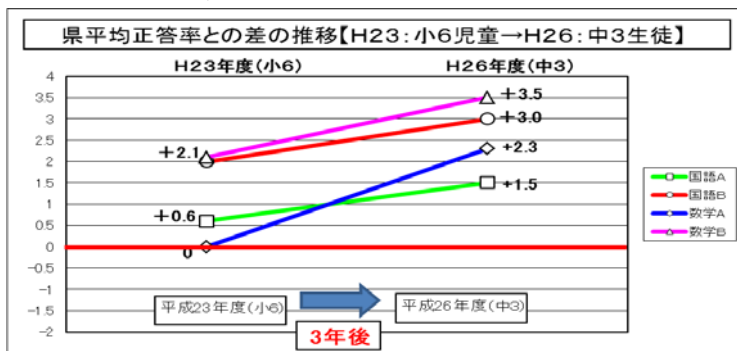


【中学校】



- ◆ 小学校は、平成25年度まで緩やかな向上傾向であったが、平成26年度は全ての分類で下降した。
- ◆ 中学校は、平成22年度より下降傾向であったが、平成26年度は全ての分類で向上した。

④ H23年度の小6， H26年度の中3の同一児童生徒群結果の経年比較



- ◆ 全ての分類で向上している。
- 国語A +0.9ポイント
- 国語B +0.9ポイント
- 算数・数学A +2.3ポイント
- 算数・数学B +1.4ポイント

※ 平成23年度は東日本大震災の影響により国が調査を実施せず、福岡県独自に国の調査問題を活用した悉皆調査を行ったため、県平均正答率との差の推移で表す。

[学校に対する質問紙調査結果から] ※数値は肯定的な回答（4段階中の上位2段階）の合計値。

問「平成25年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに働きかけを行ったか。」

平成23年度（小6）82.3%（県比-5.1） ⇒ 平成26年度（中3）82.6%（県比+0.5）

[児童・生徒に対する質問紙調査結果から] ※数値は肯定的な回答（4段階中の上位2段階）の合計値。

問「国語の勉強は好きか。」

平成23年度（小6）55.4%（県比+0.3） ⇒ 平成26年度（中3）61.8%（県比+1.9）

問「読書は好きか。」

平成23年度（小6）68.0%（県比-0.2） ⇒ 平成26年度（中3）7.03%（県比+1.5）

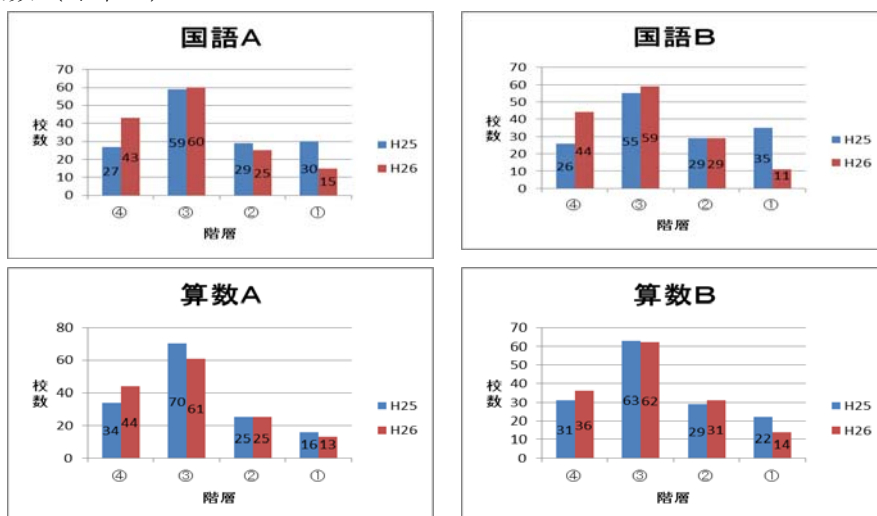
問「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか。」

平成23年度（小6）70.0%（県比-0.3） ⇒ 平成26年度（中3）81.3%（県比+2.5）

- ◆ 小6においては全ての分類で県平均を上回っていたが、中3ではさらに向上した。
- ◆ 学校質問紙から、保護者や地域との連携は小学校から継続して行われてきており、平成23年度では、県比で5.1ポイント下回っていたが、中3では0.5ポイント上回った。
- ◆ 児童・生徒質問紙から、「国語の勉強が好きか。」「読書は好きか。」への回答に伸びが見られる。
- ◆ 児童・生徒質問紙から、「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか。」への回答に伸びが見られ、県比において2.5ポイント上回った。

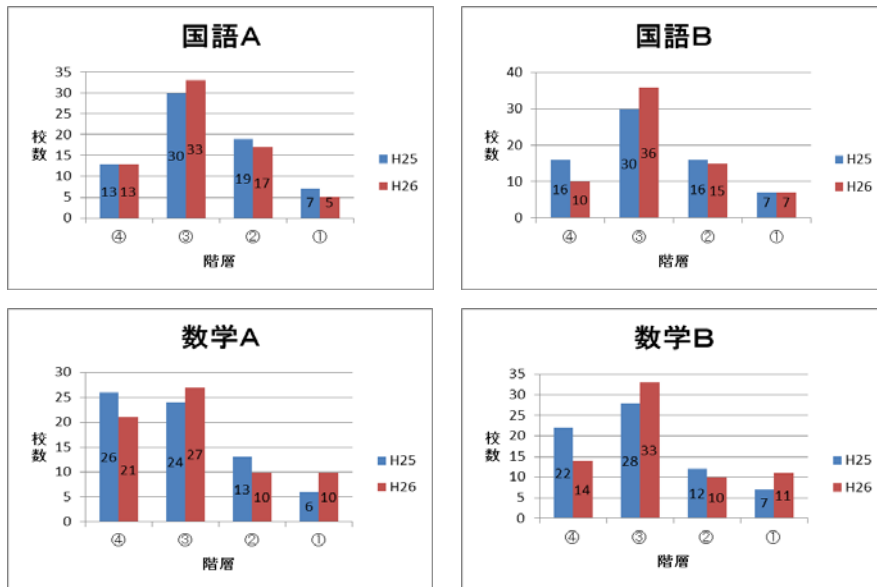
⑤ 各学校群の校数（昨年比）

【小学校】



※①「上回っている」 ②「やや上回っている」 ③「同程度である」 ④「努力を要する」の4段階で学校群を示す。

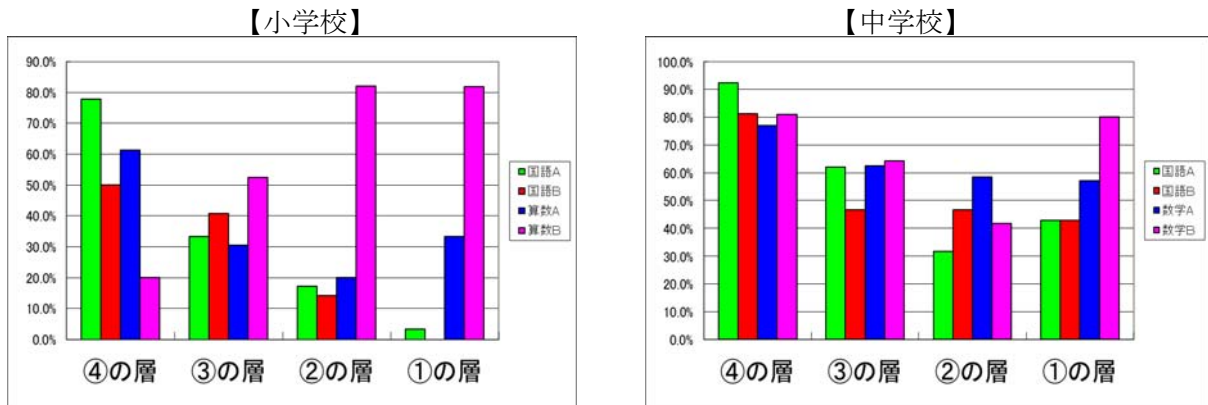
【中学校】



※①「上回っている」 ②「やや上回っている」 ③「同程度である」 ④「努力を要する」の4段階で学校群を示す。

- ◆小学校の上位群は4分類すべてにおいて、学校数が減少しており、さらに下位群が増加していることから全体として下降傾向にある。
- ◆中学校では下位群の校数が減少し、中位群の増加が見られ、全体としては向上傾向にある。

⑥H25年度の学校群の平均正答率の伸び



【集計方法】

- 平成25年度の公表に合わせ、小中学校を4つの学校群にする。
- 学校群ごとに、昨年の自校平均正答率と全国平均正答率を比べ、本年度向上した学校の割合を出す。

【参考】

平成25年度の公表

- ①「上回っている」と公表した学校群
- ②「やや上回っている」と公表した学校群
- ③「同程度である」と公表した学校群
- ④「努力を要する」と公表した学校群

平成26年度の結果

25年度の自校の全国比より向上した学校の割合

(例)①の学校群数 21校
 昨年度より向上した学校数 15校

15校/21校=71.4%

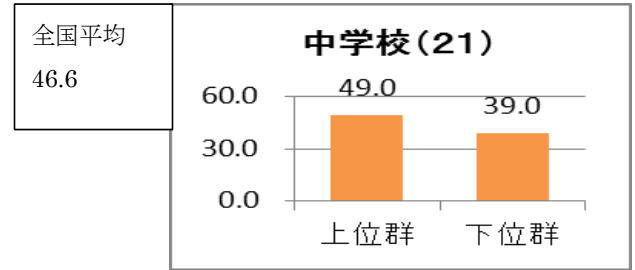
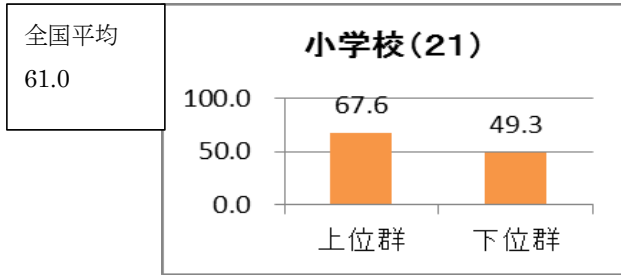
- ◆小学校国語A、Bでは下位群の伸びは見られるものの、上位群になるにしたがって、伸びが見られる学校数が減少している。
- ◆小学校算数Bでは全国平均を上回ったが、それは上位群、中位群の伸びによるものと考えられる。算数Aでは中位群の伸びが課題である。
- ◆中学校では全ての分類において下位群の75%以上の学校が向上しており、全体の底上げがなされている。

⑦学校群と学校質問紙，児童・生徒質問紙の相関

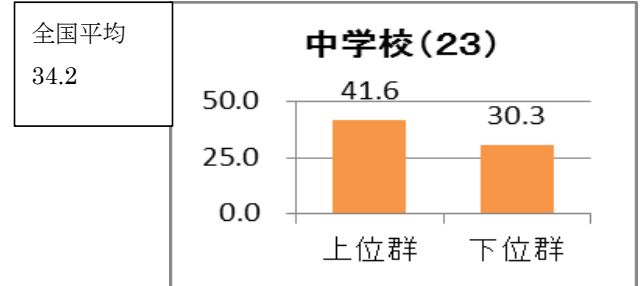
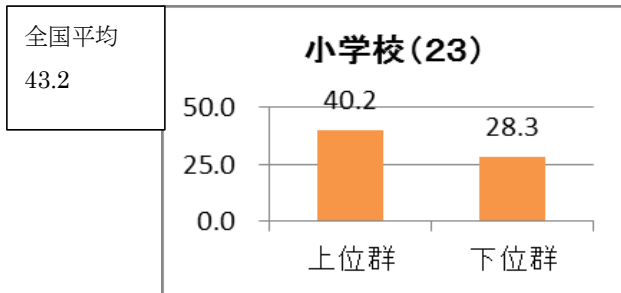
※上位群，下位群それぞれ無作為に10校を抽出。

※数値は肯定的な回答（4段階中の上位2段階の合計値）の平均。

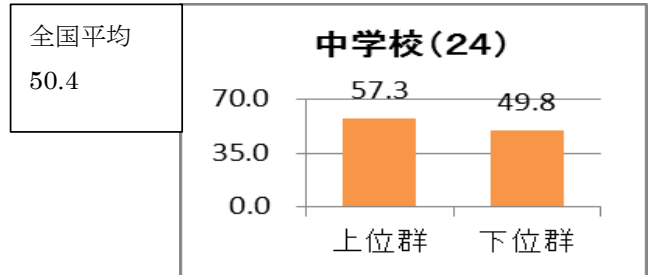
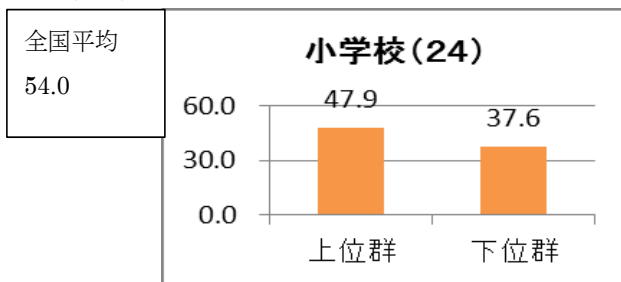
【家で，自分で計画を立てて勉強をしているか】（質問紙項目21）



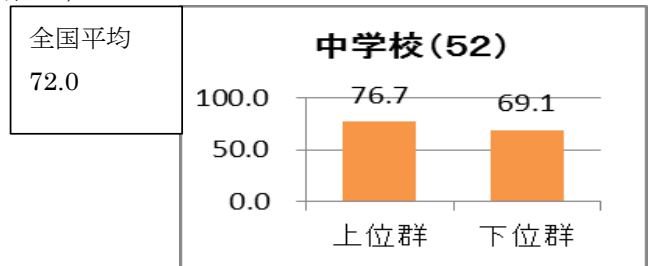
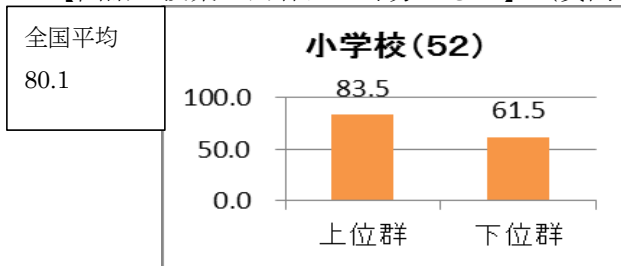
【家で，学校の授業の予習をしているか】（質問紙項目23）



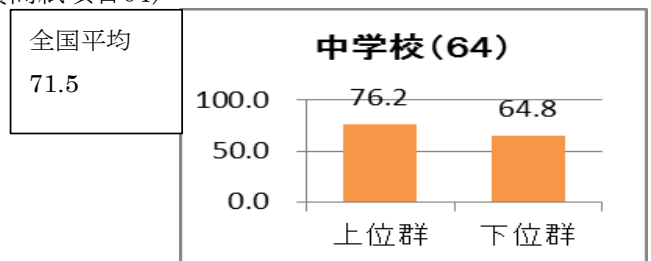
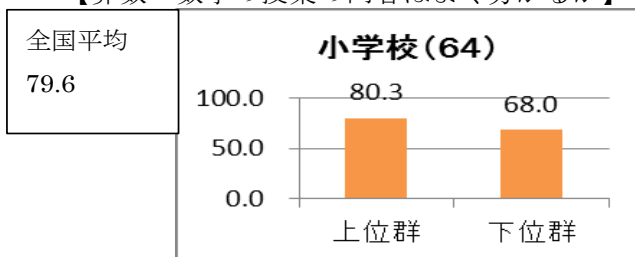
【家で，学校の授業の復習をしているか】（質問紙項目24）



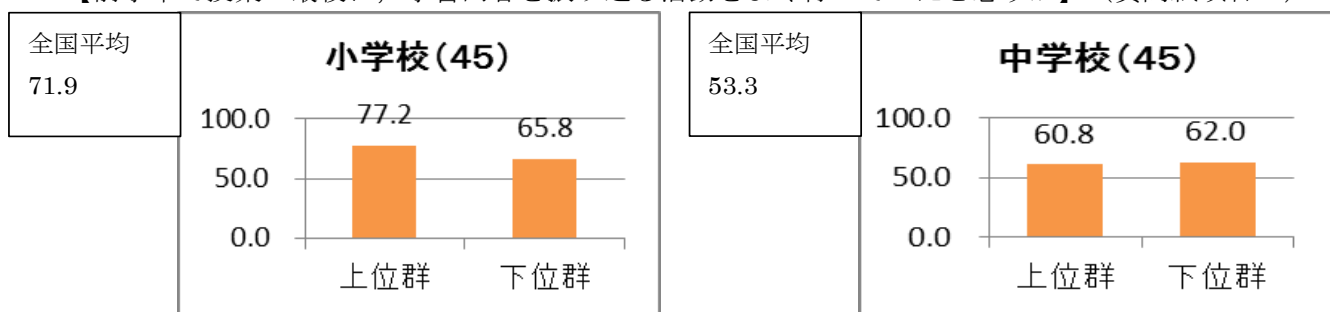
【国語の授業の内容はよく分かるか】（質問紙項目52）



【算数・数学の授業の内容はよく分かるか】（質問紙項目64）

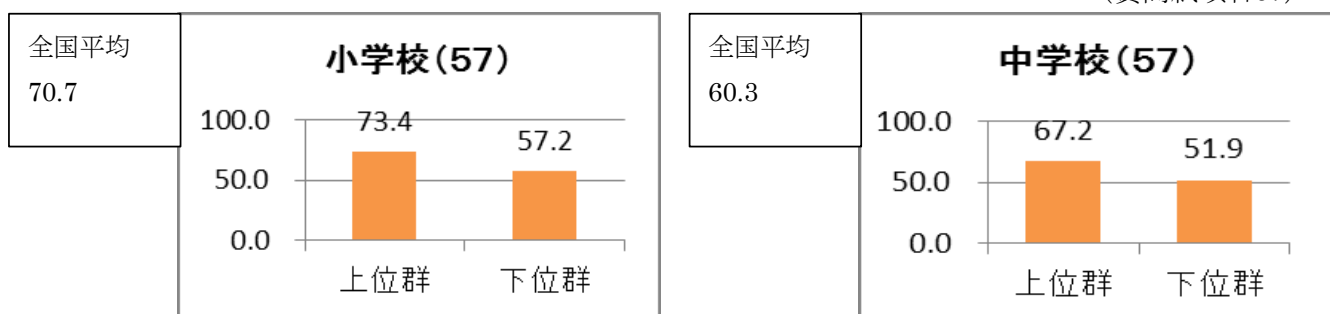


【前学年で授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思うか】（質問紙項目45）

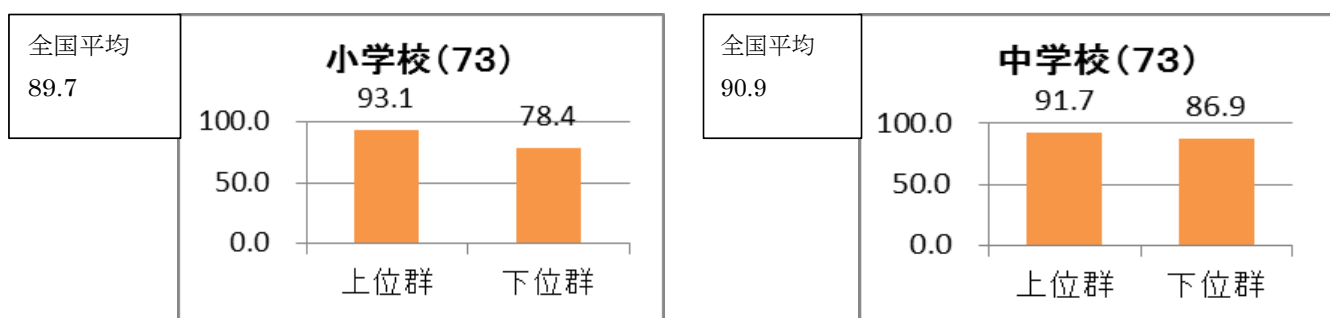


【国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いているか】

（質問紙項目57）



【調査問題の解答時間は十分だったか】（質問紙項目73）



- ◆上位群と下位群の学校の児童生徒では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」に差が見られる。下位群の学校の児童生徒では、学校での学習を確実に定着させるための家庭学習のあり方が課題である。
- ◆学習内容についても実感的な理解をより確かなものにするための授業改善はもとより、個の実態に応じた習熟度別学習や個別指導などを進めていく必要がある。
- ◆中学校では下位群の学校に振り返り活動が位置付けられ、生徒がそれを意識している。
- ◆解答に時間がかかるということは、問題の読み取りや計算処理などに時間がかかっていると考えられる。また、限られた時間の中で問題を解いていくような指導がなされていないことも考えられる。
- ◆自分の考えを書くことについての意識は、下位群の学校では低い傾向が見られる。3つの授業改善のポイントの中の、学習過程の要所で「考えを書くこと」を大切にする指導を充実させていく必要がある。

【別添 7】

⑧ H25年度、H26年度の分類別正答数の割合の分布

横軸：正答数 縦軸：割合

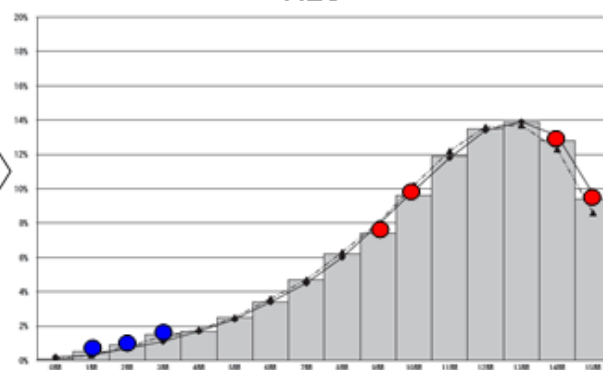
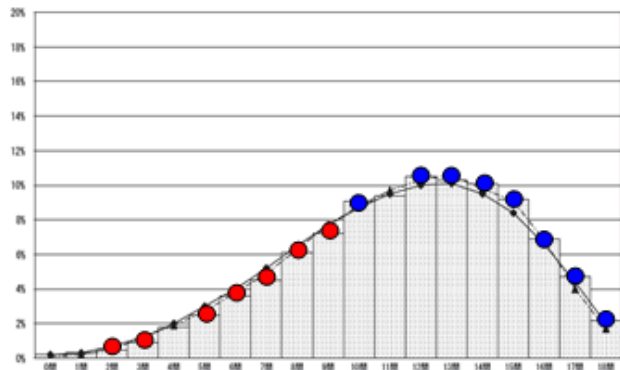
全国正答率より ●上回っている ●下回っている



(1) 小学校国語 A

H25

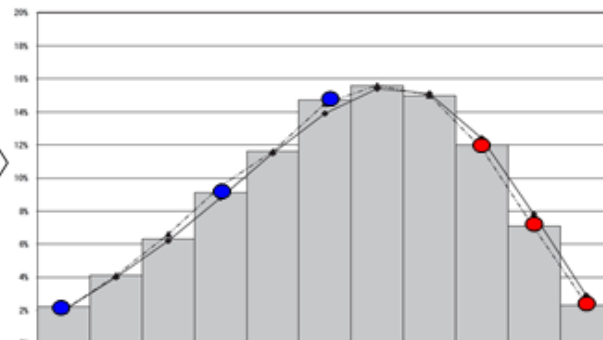
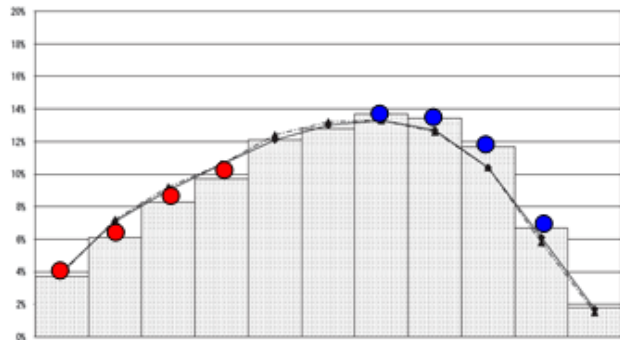
H26



(2) 小学校国語 B

H25

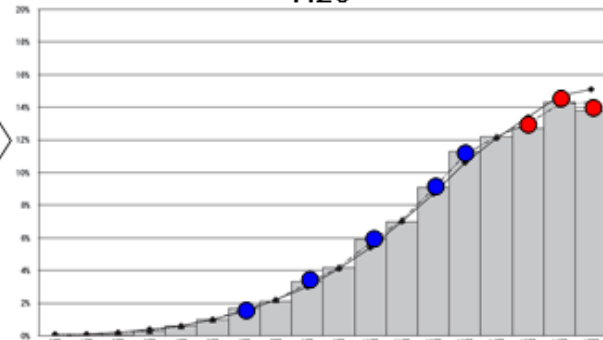
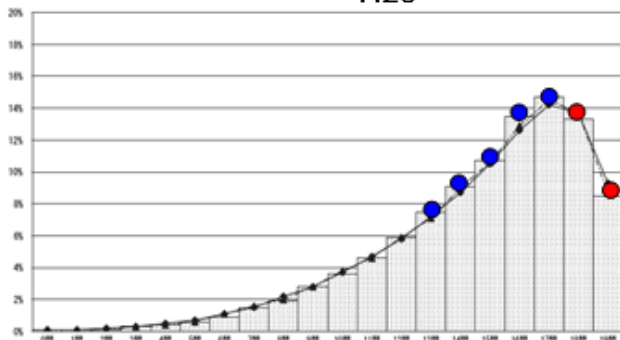
H26



(3) 小学校算数 A

H25

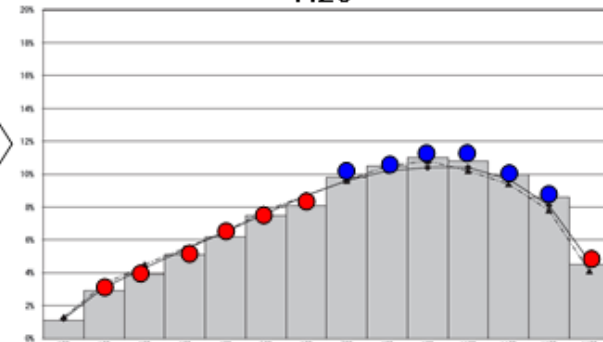
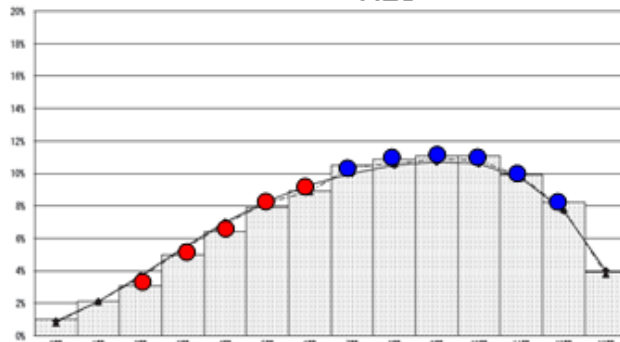
H26



(4) 小学校算数 B

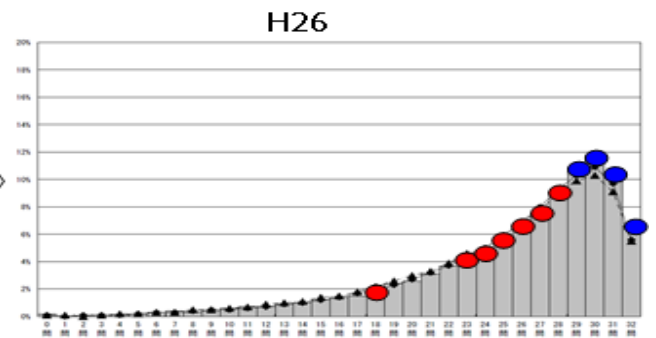
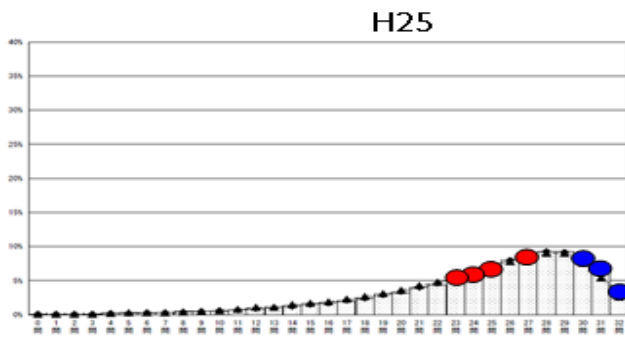
H25

H26

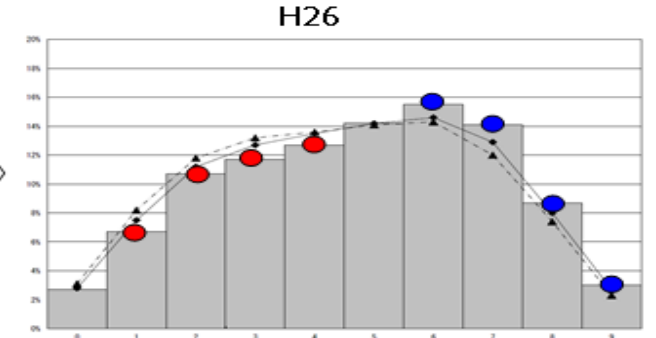
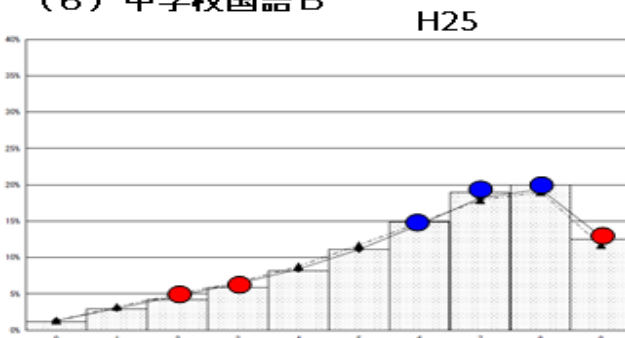


- ◆小学校国語A，国語Bにおいて昨年度より，上位層の児童の割合が全国の割合を下回り，下位層の児童の割合が全国の割合を上回った。全体的な向上をいかに図るかが課題。
- ◆小学校算数Aにおいては昨年度より，上位層，中位層の児童の割合が全国の割合を下回り，全体的に下降傾向にある。上位層，中位層の向上をいかに図るかが課題。
- ◆小学校算数Bにおいては，昨年度同様，上位層，中位層の児童の割合が全国平均を上回り，下位層の児童の割合は全国の割合を下回っている。全体的な向上をいかに図るかが課題。

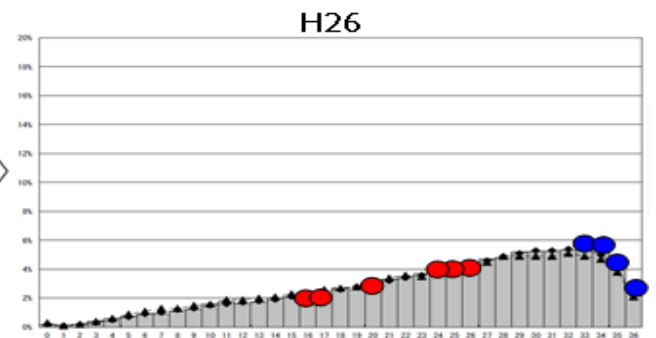
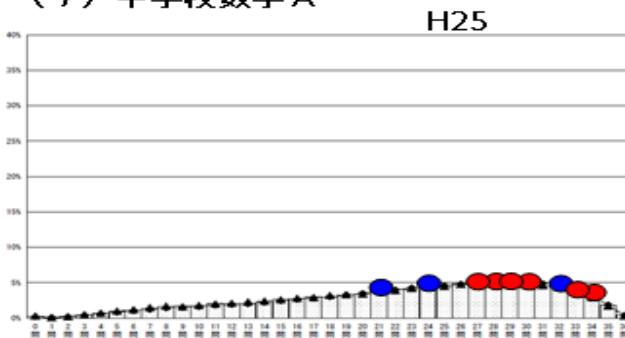
(5) 中学校国語A



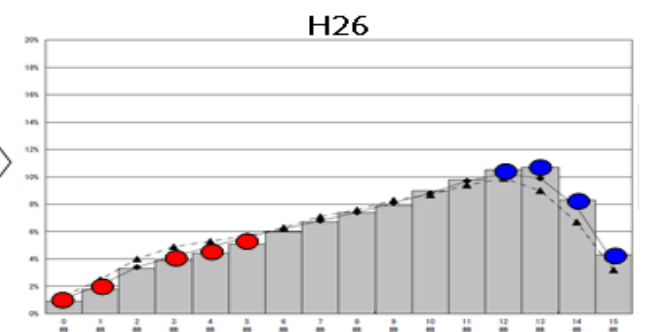
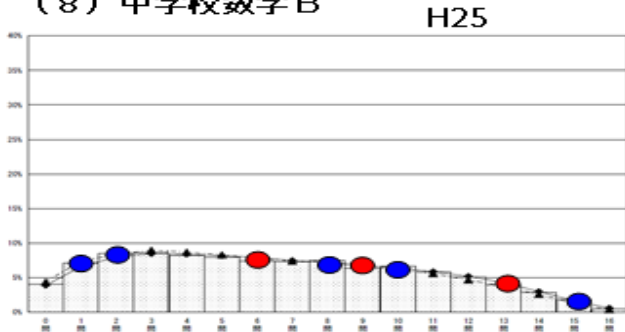
(6) 中学校国語B



(7) 中学校数学A



(8) 中学校数学B



- ◆中学校の国語Aにおいて昨年度より，中位層の生徒の向上によって上位層の生徒の割合が全国の割合を上回った。下位層の生徒の割合は，昨年度と比べて大きな変化はなく，引き続き，下位層の生徒の学力向上が課題。

- ◆中学校数学Aにおいて昨年度より、中位層の生徒の向上によって上位層の生徒の割合が全国の割合を上回った。
- ◆中学校国語B、数学Bにおいて、下位層、中位層の生徒の向上によって昨年度より上位層の生徒の割合が全国の割合を大きく上回った。下位層の生徒の割合は、昨年度と比べて全国の割合を下回っており、全体的に向上していることが成果。

⑨調査結果の全体考察

- ◆小学校では、上位群、下位群の学校において昨年度より向上した学校数が減少し全体としては下降傾向のため、上位群、中位群の向上をいかに図るかが課題。
- ◆小学校では、昨年度と比べ、上位層、中位層の児童数が減少し、下位層の児童が増加している。下位層、中位層、上位層それぞれの実態に応じた学力向上の取組が課題。
- ◆中学校では、下位群での学校で昨年度より向上した学校数が多く、中位・上位群の学校にも伸びが見られ、全体として向上傾向にある。この傾向をいかに継続していくかが課題。
- ◆中学校では、昨年度と比べ、上位層の生徒数が増加し、中位層の生徒数が減少傾向にある。下位層、中位層のさらなる学力向上の取組が課題。

(3) 小学校国語に関する調査結果の概要と考察

①観点ごとの調査結果の概況

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

| 区 分 | A (主に「知識」)の平均正答率 | | B (主に「活用」)の平均正答率 | |
|-----------------|------------------|------|------------------|------|
| | 福岡市 | 全国 | 福岡市 | 全国 |
| 教科全体 | 72.4 | 72.9 | 54.5 | 55.5 |
| 話す・聞く能力 | 72.5 | 72.4 | 51.9 | 51.2 |
| 書く能力 | 73.6 | 72.2 | 31.4 | 34.4 |
| 読む能力 | 68.5 | 68.5 | 55.6 | 57.3 |
| 言語についての知識・理解・技能 | 73.0 | 73.7 | 68.9 | 69.8 |

- ◆国語A、Bともに、「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率が全国平均を下回り、その定着に課題が見られる。国語Bにおいて、「書くこと」「読むこと」の平均正答率が全国平均を下回り、主に「活用」に課題が見られる。

②平均正答率が高かった問題と低かった問題

【正答率が高かった問題】

| 教科区分 | 設 問 の 概 要 | 市 | 全国 | 全国比 |
|------|---|------|------|------|
| 国語A | ・漢字を書く(料理をのせた <u>さら</u> を運ぶ) ・漢字を読む(道路の <u>標識</u> を見る) | 98.4 | 97.8 | +0.6 |
| | | 90.1 | 91.7 | -1.6 |
| 国語B | ・詩の表現の特徴として適切なものを選択する ・書かれた内容を関連付けながら、最初にもった疑問を捉える | 78.7 | 80.4 | -1.7 |
| | | 71.0 | 71.9 | -0.9 |

【正答率が低かった問題】

| 教科区分 | 設 問 の 概 要 | 市 | 全国 | 全国比 |
|------|---|------|------|------|
| 国語A | ・故事成語の使い方として適切なものを選択する (五十歩百歩) (百聞は一見にしかず) | 46.1 | 55.8 | -9.7 |
| | | 47.3 | 49.9 | -2.6 |
| 国語B | ・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関連付けながらまとめて書く ・立場を明確にして、質問や意見を述べる | 25.0 | 26.9 | -1.9 |
| | | 26.1 | 28.3 | -2.2 |

- ◆正答率が高かった問題は漢字の書き取り、低かった問題は分かったことや疑問に思ったことを整理し関連付けながらまとめて書く問題であり、書く活動の充実が重要である。

③児童に対する調査と学校に対する質問紙調査の結果から

[児童に対する調査結果] ※数値は、否定的な回答（4段階中の上位2段階）の合計値。

| | |
|--|----------------|
| 問「国語の授業の内容はよく分かるか。」 | 83.4%（全国比-3.1） |
| 問「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか。」 | 57.6%（全国比-3.8） |
| 問「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けながら書いているか。」 | 66.3%（全国比-4.4） |

[学校に対する質問紙調査結果] ※数値は、肯定的な回答（4段階中の上位2段階）の合計値。

| | |
|---------------------------------------|----------------|
| 問「前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったか。」 | 83.4%（全国比-4.8） |
| 問「書く習慣を付ける授業を行ったか。」 | 88.2%（全国比-2.4） |
| 問「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか。」 | 74.3%（全国比-8.9） |

- ◆児童質問紙で、授業の内容の理解が全国平均を3.1ポイント下回っており、授業における「知識・理解・技能」の確かな定着を図る授業改善が求められる。
- ◆児童質問紙で、「資料を読んで自分の考えを書く」「理由が分かるように書く」などの回答が全国平均を下回り、学校質問紙では、「書く習慣をつける授業」についても下回っていることから、自分の考えとその理由を明確にもたせる学習の充実が求められる。
- ◆学校質問紙で、「さまざまな文章を読む授業」「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」の回答が全国平均を下回っており、読み物や資料を複数比べたり、考えを他者と交流し合ったりする言語活動の充実が求められる。

④小学校国語の考察

- 国語Aで全国平均を下回ったのは、「言語についての知識・理解・技能」が下回っているため、その定着が課題。
- 国語Bで全国平均を下回ったのは、「書く」「読む」という知識・技能を身につけさせる指導が不十分であったことが要因と思われる。

(4) 小学校算数における調査結果の概要と考察

①領域ごとの調査結果の概況

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

| 区 分 | A(主に「知識」)の平均正答率 | | B(主に「活用」)の平均正答率 | |
|------|-----------------|------|-----------------|------|
| | 福岡市 | 全国 | 福岡市 | 全国 |
| 教科全体 | 77.5 | 78.1 | 59.1 | 58.2 |
| 数と計算 | 82.0 | 81.8 | 61.7 | 61.3 |
| 量と測定 | 74.0 | 74.8 | 58.1 | 56.5 |
| 図形 | 70.3 | 71.8 | 67.4 | 65.7 |
| 数量関係 | 79.7 | 81.3 | 57.4 | 56.2 |

②観点ごとの調査結果の概況

| 区 分 | A(主に「知識」)の平均正答率 | | B(主に「活用」)の平均正答率 | |
|-----------------|-----------------|------|-----------------|------|
| | 福岡市 | 全国 | 福岡市 | 全国 |
| 数学的な考え方 | — | — | 48.3 | 47.8 |
| 数量や図形についての技能 | 87.4 | 87.9 | 77.0 | 76.2 |
| 数量や図形についての知識・理解 | 68.7 | 69.5 | 57.0 | 54.8 |

- ◆「数と計算」領域での定着が見られるが、領域ごとのばらつきも見られ、「量と測定」「図形」「数量関係」で平均正答率が全国を下回っている。観点ごとにおける「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」の定着も課題である。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

【平均正答率が高かった問題】

| 教科区分 | 設問の概要 | 市 | 全国 | 全国比 |
|------|--|------|------|------|
| 算数A | ・ $46 + 57$ を計算する ・ 903×6 を計算する | 96.6 | 96.9 | -0.3 |
| | | 93.1 | 92.8 | +0.3 |
| 算数B | ・ 計算結果の見通しをもち、(2位数) \times (1位数) の筆算をする ・ 基準量と比較量を捉え、何倍かを求める式と答えをかく | 95.0 | 94.6 | +0.4 |
| | | 83.3 | 82.5 | +0.8 |

【平均正答率が低かった問題】

| 教科区分 | 設問の概要 | 市 | 全国 | 全国比 |
|------|--|------|------|------|
| 算数A | ・ コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられて平行四辺形の特徴を選ぶ ・ 示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さの0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ | 48.1 | 52.0 | -3.9 |
| | | 52.4 | 54.1 | -1.7 |
| 算数B | ・ 示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述する ・ 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する | 30.0 | 30.6 | -0.6 |
| | | 33.3 | 33.0 | +0.3 |

- ◆ 正答率が高かった問題は、計算の技能や数量についての技能などの「数と計算」領域である。しかし、減法と乗法の混合計算など全国平均を大きく下回っているものもある。児童にとって理解しにくい内容を分析し、理解するまで指導していくことが求められる。

④児童に対する調査と学校に対する質問紙調査の結果から

[児童に対する調査結果]

※数値は、肯定的な回答(4段階中の上位2段階)の合計値。

| | |
|---|-----------------|
| 問「算数の授業の内容はよく分かるか。」 | 75.6% (全国比-4.0) |
| 問「算数の勉強は好きか。」 | 63.9% (全国比-2.2) |
| 問「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか。」 | 75.0% (全国比-3.1) |
| 問「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思うか。」 | 74.5% (全国比-2.8) |
| 問「家で、学校の授業の予習をしているか。」 | 38.8% (全国比-4.4) |
| 問「家で、学校の授業の復習をしているか。」 | 47.8% (全国比-6.2) |

[学校に対する質問紙調査結果]

| | |
|--|------------------|
| 問「計算問題などの反復練習をする授業を行ったか。」 | 98.6% (全国比+1.2) |
| 問「発展的な学習の授業を行ったか。」 | 52.1% (全国比-6.2) |
| 問「実生活における事象との関連を図った授業を行ったか。」 | 57.0% (全国比-9.2) |
| 問「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたか。」 | 89.6% (全国比-4.3) |
| 問「算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えたか。」 | 100.0% (全国比+0.5) |
| 問「調べたり文章を書いたりする宿題を与えたか。(国語・算数共通)」 | 71.5% (全国比-6.3) |

- ◆ 児童質問紙で、「算数の勉強が好き」や「諦めずに問題を解く」、「新しい問題に対し解いてみたいと思う」ことが全国平均より低く、児童の学習意欲を高め、学習内容の理解へつなげることが重要である。
- ◆ 学校質問紙から、「計算などの反復練習」は全国平均よりも高い一方で「発展的な学習」や「実生活と関連させた授業」「思考を深める授業」は全国よりも大きく下回っていることから、児童が意欲を高め、課題解決での必要感を高めるとともに思考を深める授業を行うことで、知識・理解の確かな定着につないでいくことが必要である。

- ◆学校質問紙で、「家庭学習を与えている」が全国平均を上回っているものの、「書くことを重視した宿題」を出す割合が低く、児童質問紙では「予習・復習をしている」も低いことから、家庭学習の目的や内容を明確にした取組が求められる。

⑤小学校算数の考察

- 算数Aにおいて、数量や図形についての技能及び数量や図形についての知識・理解・技能に課題。
- 算数Bにおいて、数量や図形についての知識・理解・技能に成果。
- 学習内容の理解をより確実に定着させるため、授業における学習の振り返りや目的を明確にした家庭学習のあり方が課題。

(5) 中学校国語における調査結果の概要と考察

①観点ごとの調査結果の概況

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

| 区 分 | A (主に「知識」)の平均正答率 | | B (主に「活用」)の平均正答率 | |
|-----------------|------------------|------|------------------|------|
| | 福岡市 | 全国 | 福岡市 | 全国 |
| 教科全体 | 79.9 | 79.4 | 52.6 | 51.0 |
| 話す・聞く能力 | 74.0 | 72.3 | — | — |
| 書く能力 | 83.3 | 83.4 | 41.9 | 41.0 |
| 読む能力 | 84.5 | 82.9 | 50.6 | 49.2 |
| 言語についての知識・理解・技能 | 78.7 | 78.7 | 58.4 | 56.8 |

- ◆国語Aにおいて、「話すこと・聞くこと」「読むこと」、国語Bにおいては、すべての観点の平均正答率が全国平均を上回り、成果が見られる。

②平均正答率が高かった問題と低かった問題

【平均正答率が高かった問題】

| 教科区分 | 設 問 の 概 要 | 市 | 全国 | 全国比 |
|------|---|------|------|------|
| 国語A | ・適切な語句を選択する (先のことは分からないがとりあえず準備だけはしておこう) ・漢字を読む(新記録に挑む) | 96.4 | 96.2 | +0.2 |
| | | 95.8 | 95.2 | +0.6 |
| 国語B | ・落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像し、適切なものを選択する ・標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する | 68.5 | 67.2 | +1.3 |
| | | 68.4 | 65.3 | +3.1 |

【平均正答率が低かった問題】

| 教科区分 | 設 問 の 概 要 | 市 | 全国 | 全国比 |
|------|--|------|------|------|
| 国語A | ・二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する ・漢字を書く(円のハンケイを求める) | 56.0 | 54.3 | +1.7 |
| | | 56.5 | 59.5 | -3.0 |
| 国語B | ・水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く ・本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する | 28.7 | 28.4 | +0.3 |
| | | 32.2 | 31.4 | +0.8 |

- ◆正答率が高かった問題は、語句の選択や漢字であるが、漢字によっては正答率が低くなっているものもあり、確実な定着が求められる。
- ◆正答率が低かった問題は、理由を書いたり説明をする問題であり、「書く」ことを大切にした指導改善が大切である。

③生徒に対する調査と学校に対する質問紙調査の結果から

[生徒に対する調査結果] ※数値は、肯定的な回答（4段階中の上位2段階）の合計値。

| | |
|--|-----------------|
| 問「国語の勉強は好きか。」 | 98.6% (全国比+1.2) |
| 問「国語の勉強は大切だと思うか。」 | 91.6% (全国比+2.6) |
| 問「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしているか。」 | 52.1% (全国比-4.0) |
| 問「国語の授業で意見など発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫しているか。」 | 46.1% (全国比-3.0) |
| 問「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いているか。」 | 58.6% (全国比-1.7) |

[学校に対する質問紙調査結果]

| | |
|--|------------------|
| 問「様々な意見を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたか。」 | 81.1% (全国比-10.0) |
| 問「発言や活動の時間を確保して授業を進めたか。」 | 86.9% (全国比-6.4) |
| 問「国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったか。」 | 69.6% (全国比-11.9) |
| 問「国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行ったか。」 | 88.4% (全国比-5.2) |

- ◆生徒質問紙では、「国語の勉強」の重要性や価値について、全国平均+2.6と肯定的に捉えている生徒が多く、子どもの主体性を育む授業改善に成果が見られる。
- ◆生徒質問紙では、「自分の考えをもつこと」「自分の考えを書くこと、話すこと」について、全国平均を下回っており、また、学校質問紙では、「書く習慣」「相手に応じて話す・聞く」を意識した授業について全国平均を下回っていることから、考えを交流し合う時間の確保とともに、発問を工夫するなどして自分の考えを生み出させるような指導をさらに充実していく必要がある。

④中学校国語の考察

- 「話す・聞く能力」「読む能力」の定着は図られている。
- 「書く能力」の定着が課題。
- 資料をもとに話したり書いたりするなど、主体的な学習を通して「話す・聞く」「書く」力を育成させることが課題。

(6) 中学校数学における調査結果の概要と考察

①領域ごとの調査結果の概況

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

| 区 分 | A (主に「知識」)の平均正答率 | | B (主に「活用」)の平均正答率 | |
|-------|------------------|------|------------------|------|
| | 福岡市 | 全国 | 福岡市 | 全国 |
| 教科全体 | 67.9 | 67.4 | 61.3 | 59.8 |
| 数と式 | 78.0 | 77.4 | 58.5 | 56.9 |
| 図形 | 66.0 | 66.4 | 60.2 | 58.6 |
| 関数 | 58.4 | 58.0 | 64.9 | 64.4 |
| 資料の活用 | 61.8 | 59.1 | 59.3 | 55.9 |

②観点ごとの調査結果の概況

| 区 分 | A (主に「知識」)の平均正答率 | | B (主に「活用」)の平均正答率 | |
|-----------------|------------------|------|------------------|------|
| | 福岡市 | 全国 | 福岡市 | 全国 |
| 数学的な見方や考え方 | — | — | 59.4 | 57.9 |
| 数学的な技能 | 69.1 | 68.2 | | |
| 数量や図形についての知識・理解 | 67.0 | 66.8 | 88.3 | 87.5 |

- ◆数学Aと数学Bのどちらも全国を上回っており、数学Aの「図形」領域のみが全国平均を下回る。「資料の活用」領域は、指導の改善が進み、全国平均を大きく上回る。
- ◆観点ごとでは、全て全国平均を上回っているが、問題によっては、全国平均を下回っているものがあり、確実な定着が求められる。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

【平均正答率が高かった問題】

| 教科区分 | 設問の概要 | 市 | 全国 | 全国比 |
|------|---|------|------|------|
| 数学A | ・線対称な図形を完成させる ・35を基準にして38を正の数で表す | 93.0 | 93.8 | -0.8 |
| | | 92.4 | 91.1 | +1.3 |
| 数学B | ・外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ ・与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める | 94.0 | 92.8 | +1.2 |
| | | 88.3 | 87.5 | +0.8 |

【平均正答率が低かった問題】

| 教科区分 | 設問の概要 | 市 | 全国 | 全国比 |
|------|--|------|------|------|
| 数学A | ・与えられた表を基に、宅配サービスの質量と料金の関係を、「 $\cdot\cdot$ は $\cdot\cdot$ の関数である」という形で表現する ・円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ | 36.6 | 35.8 | +0.8 |
| | | 36.8 | 38.7 | -1.9 |
| 数学B | ・ $\angle BAC=110^\circ$ 、 $BD=AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める ・兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する | 24.0 | 23.3 | +0.7 |
| | | 30.7 | 29.9 | +0.8 |

- ◆正答率が高かったのは、数量や図形などについての知識・理解、数学的な技能の問題であり、低かったのは、意味理解に関する問題や理由を説明する問題である。
- ◆正答率が低かったのは、図形領域において証明の過程や結論を基に発展的に考える問題や、関数関係にあるものを見いだし説明する問題である。「関数」領域については指導の改善が進んでいるものの、理由や説明することができるように指導することが課題である。

④生徒に対する調査と学校に対する質問紙調査の結果から

【生徒に対する調査結果】 ※数値は、肯定的な回答（4段階中の上位2段階）の合計値。

| | |
|---|-----------------|
| 問「数学の授業の内容はよく分かるか。」 | 70.7% (全国比-0.8) |
| 問「1, 2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思うか。」 | 57.2% (全国比+3.9) |
| 問「調査問題の解答時間は十分だったか。(数学A)」 | 89.8% (全国比-1.1) |
| 問「調査問題の解答時間は十分だったか。(数学B)」 | 73.0% (全国比-4.7) |

【学校に対する質問紙調査結果】

| | |
|--|------------------|
| 問「習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしたか。」 | 10.1% (全国比-12.6) |
| 問「発展的な学習の指導をしたか。」 | 39.1% (全国比-22.2) |

- ◆生徒質問紙では、「学習の最後に振り返りの活動を行った」生徒の割合が全国平均に比べて高い。学習内容についての理解が定着し、正答率の向上につながったと考えられる。
- ◆生徒質問紙で「授業内容がよく分かる」、学校質問紙で「少人数指導による指導」が、習熟の遅い生徒に対しても習熟の早い生徒に対しても全国平均に比べ下回っている。学習内容を確実に習得させるために、適時、個に応じた指導を充実させる必要がある。

⑤中学校数学の考察

- 数学A, Bともに全国を上回った。数学Aの「図形」領域が課題。
- 数学A, 数学Bともに解答時間が十分だったと回答した全国平均を大きく下回っていることが課題。
- 少人数指導の実施など、補充・発展を学校組織で取り組むことが課題。

3. 昨年度の課題の検証

- 下位層の児童生徒への学力補充の継続について
 - ・ 小・中学校ともに下位層の向上が見られる。さらなる学力補充の充実と今後の継続を行うことが向上傾向を継続することにつながる。
- 中位・上位層の児童生徒の学力向上に向けた取組について
 - ・ 小学校では、上位・中位層の児童に伸びが見られないことが、今年度、全国平均を下回ったことの要因として考えられる。
 - ・ 中学校では、上位・中位層の生徒に伸びが見られている。
- 「分かった」を実感させる知識・理解・技能の定着に向けた取組について
 - ・ 小・中学校ともに、特に下位群の学校において、「分かった」を実感させる取組がなされているとはいえない。授業内容が「分からない」児童生徒への学習支援とともに、学習への興味・関心を高め、自発的に学習に取り組む授業改善の工夫が必要である。
- 「授業改善の3つのポイント」について
 - ・ 小学校では、上位群と下位群の学校に差が見られる。
 - ・ 中学校では、下位群の学校において「振り返り」の活動が位置づき、生徒の意識も高まっている。
 - ・ 小学校では、下位群、中学校では中位・上位群の「振り返り」の活動の充実が必要である。
 - ・ 「教えること」と「学ばせること」の区別をし、バランスのとれた指導がなされていない。そのため、知識・理解面での定着が十分ではない。

4. 今後の取組の方向性

(1) 各学校での取組の努力点

- 学習内容の理解を確実にするための個に応じたきめ細かな指導の徹底
 - ・ 児童生徒の学力実態の分析と課題の明確化
 - ・ 少人数指導や習熟度別学習の充実
 - ・ 補充学習・発展学習の充実
- 授業改善の3つのポイントの徹底
 - ・ 「教えること」と「学ばせること」のバランスのとれた授業の展開
 - ・ 目的を明確にした「書く」「話す・聞く」「読む」活動を行い、自分の考えが高まっていくような言語活動の充実
 - ・ 授業における振り返りの時間の確保と活動内容の工夫
- 家庭と連携した家庭学習・自学の充実

(2) 教育委員会としての取組

- 学力パワーアップ総合推進事業の充実
 - ・ 学力向上プランに中間検証を取り入れることによるPDCAサイクルでの検証と指導・助言
 - ・ 習熟度別、課題別の少人数指導や学力の補充・発展学習等、先進的な学校における実践例を全市に発信
- 学校訪問等における指導主事の指導の充実
 - ・ 学校の課題に応じて作成した指導資料や、学力向上推進プランの中間検証をもとにした各学校の課題や具体的な取組の明確化
 - ・ 各学校の学力課題や生徒指導上の課題に応じた学校との双方向的な協議
- 学校指導課と教育センターとの連携強化
 - ・ 本市の課題を共有し研修講座や校内研修での指導・助言